

勝浦市 道路附属物修繕計画



令和7年12月



1. 長寿命化修繕計画の背景と目的

1) 背景

- 勝浦市が管理している道路附属物の施設数は、令和4年3月末日現在で横断歩道橋1施設、大型カルバート1施設、合計2施設となっています。
- 現在、建設後横断歩道橋は57年を経過、大型カルバートは49年を経過する高齢化施設となっています。
- 今後、他施設と合わせ高齢化施設の増大に伴い、修繕や架替えに要する費用の集中が予想され、大きな財政負担が懸念されることから、安全性・信頼性の確保と同時に、コスト縮減と効率的かつ効果的な維持管理への取り組みが不可欠となっています。

2) 目的

- 「勝浦市道路附属物修繕計画」は、附属物の老朽化への対応策として、従来の事後的な修繕（損傷が顕著化してから補修）から、予防的な修繕（損傷が小さいうちに補修）へと転換することで、地域道路網の安全性と信頼性を確保すると同時に、維持管理に係る費用の縮減を図ることを目的とします。

2. 道路附属物修繕計画の対象施設

今回は勝浦市が管理する2施設（横断歩道橋、1橋、大型カルバート1基）を対象に5年に1度の定期点検を行う施設の修繕計画の見直しを行うものとします。

表 1 道路附属物修繕計画の対象施設

施設	箇所数
道路附属物	2施設
横断歩道橋	1橋
大型カルバート	1基

3. 健全度の把握及び維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

健全度の把握は、「横断歩道橋定期点検要領（平成31年2月：国土交通省道路局）」、「シェッド、大型カルバート等定期点検要領（平成31年2月：国土交通省道路局）」等の各種要領に基づいて、5年に1度の頻度を基本とした定期点検により把握します。

2) 維持管理に関する基本的な方針

道路附属物を良好な状態に保つため、定期的に「道路パトロール」を実施し、清掃や土砂詰まりの除去等、比較的対応が容易なものについて措置します。

4. 老朽化対策における基本方針

施設の高齢化数の増加に伴い、維持管理負担増が見込まれ、これまでの点検結果、利用状況を基に、新技術を積極的に採用することにより費用縮減を図ることが必要となります。今後は、通常の修繕に加え、新技術活用等による事業効率化・費用縮減による、持続的・実効的な施設のインフラメンテナンスを目指します。修繕を行う施設は、新技術等の動向を把握し、従来工法と新技術等を含めた老朽化対策適切工法の経済比較検討を実施します。

5. 新技術の活用方針

定期点検及び修繕の実施にあたっては、新技術情報提供システム(NETIS)や点検支援技術性能カタログ(案)により新技術等の動向を把握し、従来工法と新技術等を含めた比較検討を実施します。検討の結果、新技術の活用により事業の効率化や費用縮減が図れる場合には、新技術を積極的に採用します。

点検方法において新技術の活用検討を積極的に行い、当該箇所において周囲への安全性を十分に確保し、近接目視と同等の効果が得られる技術が開発されることを見込み、定期点検において令和13年度までに60万円の縮減を目指します。

補修工法において効率的・効果的な管理橋梁の維持管理のため詳細設計の際は、費用の縮減や事業の効率化等の効果が見込まれる新技術による工法を検討し、積極的に活用します。

6. 道路附属物の集約・撤去に関する方針

勝浦市で管理している道路附属物は横断歩道橋と大型カルバートで各1 施設しかなく、設置位置やその必要性から、集約・撤去の検討を進めていくことは困難であるため、日々の維持管理の中で、既存施設の長寿命化を図ります。

7. 長寿命化及び修繕架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

機能不全に陥った時点で更新、または交換を行う事後保全型維持管理（従来型管理方法）から、定期点検および小規模修繕を継続することで、安全性が確保できる期間内で対策を実施し、健全度を維持しながら長寿命化を図る予防保全型の維持管理を導入（図1）し、維持管理に係る費用の縮減を図ります。

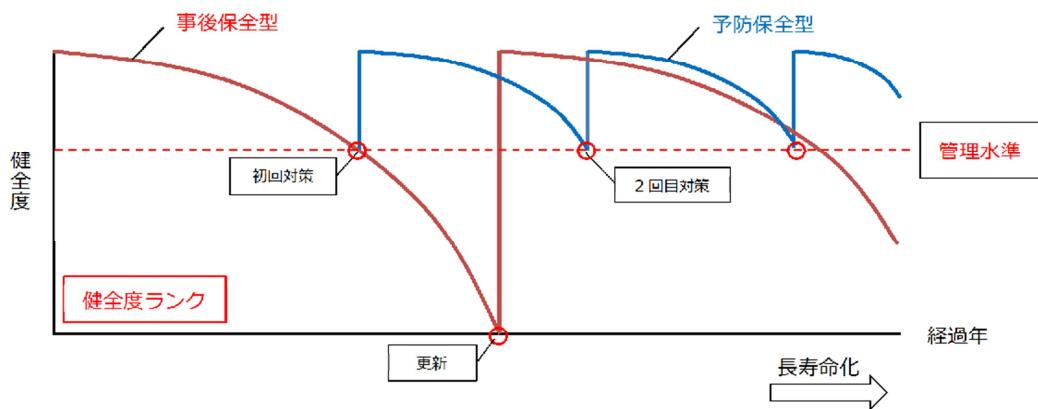


図1 管理シナリオの考え方

8. 修繕計画による効果

予防保全型の維持管理を基本とした修繕計画の実施により、従来の事後保全型の維持管理と比較して、100年間で横断歩道橋の場合は約2千万円、大型カルバートの場合は約3.5千万円コスト縮減が可能となります。

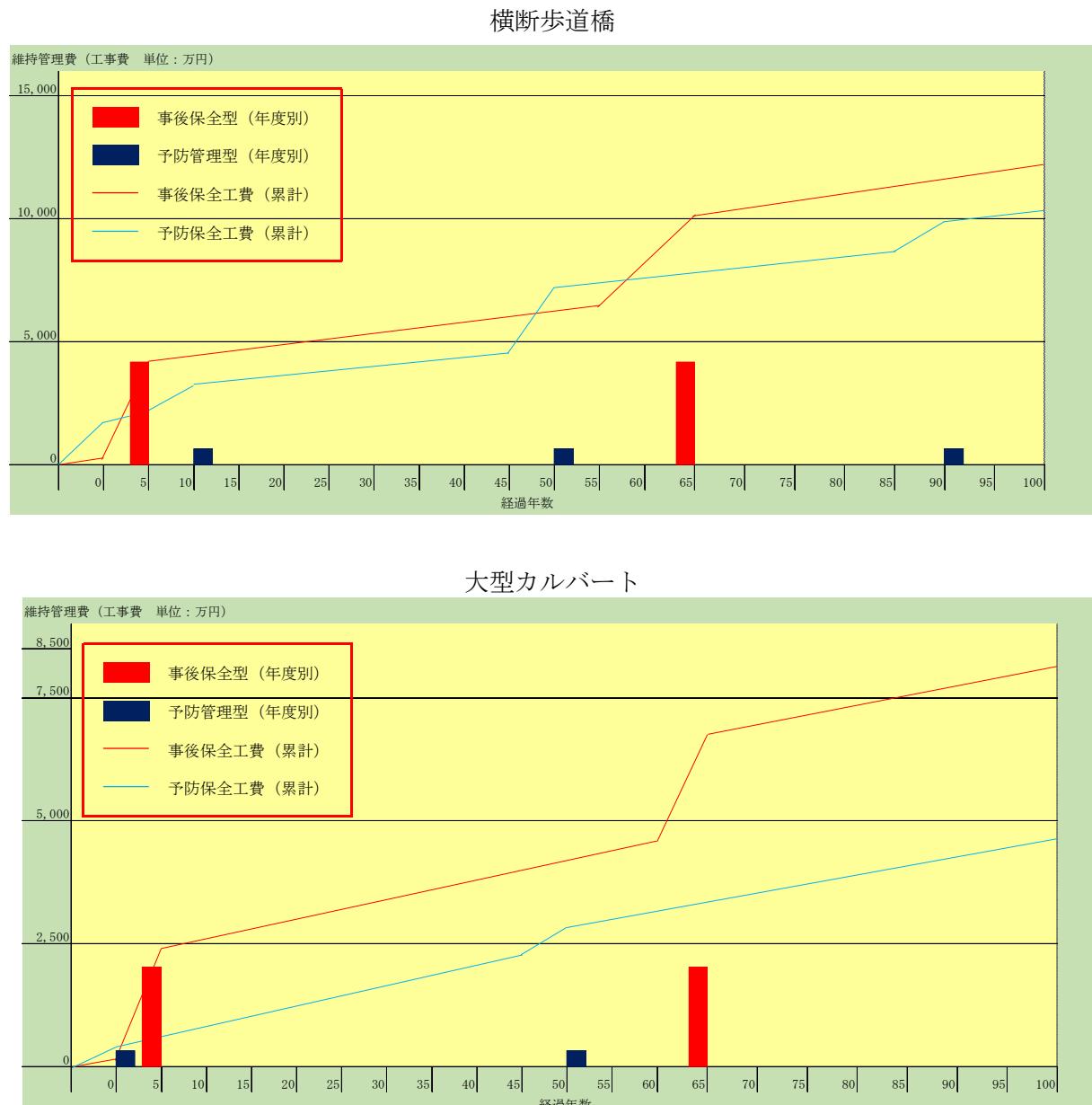


図 2 修繕計画によるコスト縮減効果

9. 計画策定担当部署

1) 計画策定担当部署

勝浦市 都市建設課 T E L : 0 4 7 0 - 7 3 - 6 6 2 9